

産婦人科医会対外広報 記者懇談会
平成21年7月8日(水) 日本記者クラブ

性教育(性の健康教育)への取り組みについて
—第32回性教育指導セミナー全国大会(岡山市)—
テーマ「性教育:いつまでに?どこまで?」
平成21年7月26日日曜日

日本産婦人科医会 女性保健部会
安達 知子 (母子愛育会 愛育病院)

性教育(性の健康教育)は
家庭・学校・地域の連携の下に行われる
学校での性に関する教育は、
文科省の定める指導要領にそって、児童
生徒の発達段階に応じて、性に関する科学的
知識を理解させるとともに、これに基づいた
望ましい行動がとれることを目的に、主として、
保健体育を通して、その教科書の内容を踏ま
えて行われる (小学校3年生からスタートする)

すなわち、発達年齢に沿った段階的教育の指導要領はあるが、いつまでに、どこまでの性の健康教育を行うかは、バリエーションがある。

一般人の認識、地域の医療関係者の認識、父母の認識、教育現場においても、養護教諭の認識や学校長、教育委員会の考え方は異なる。

しかし、目指す性の健康教育は同じである。

“いつまでに、どこまで”の性の健康教育を、どのように行っていくことが効果的か、この大きな課題が、今回の岡山での性教育指導セミナーのメインテーマである。

参考資料

小学校指導要領 体育(保健) 抜粋

- 第3学年 学校でも、健康診断や学校給食など様々な活動が行われていることについて触れるものとする。
- (1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。
 - ア 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
 - イ 毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つことや明るさ、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。
- 第4学年 自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れるものとする。
- (2) 体の発育・発達について理解できるようにする。
 - ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体をよりよく発育・発達させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。
 - イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

月経・射精・思春期
について

- 「保健」に配当する授業時数は、2学年間で8単位時間程度
- 効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当すること

参考資料

小学校指導要領 体育(保健) 抜粋

■ 第5学年

- (2) 心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について理解できるようにする。
- ア) 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達すること。
- イ) 心と体は密接な関係にあり、互いに影響し合うこと。

思春期の悩み
について

■ 第6学年

薬物については、有機溶剤の心身への影響を中心に扱うものとする。また、覚せい剤等についても触れるものとする。

- (3) 病気の予防について理解できるようにする。
- ア) 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかりあって起こること。
- イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
- ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付けることが必要であること。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

HIVについて
(性的接触については
触れられていない)

- 「保健」に相当する授業時数は、2学年間で16単位時間程度
- 効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当すること

参考資料

中学生指導要領 保健体育 抜粋

■ 第1学年

妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠までを取り扱う。また、生殖にかかわる機能の成熟に伴い、性衝動が生じたり、異性への関心が高まることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。
- ア) 身体の機能は年齢とともに発達すること。
- イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、こうした変化に対応した適切な行動が必要となること。
- ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。

性腺刺激ホルモン
排卵・月経のしくみ、射精のしくみ
受精と妊娠について
性との向き合い方

■ 第3学年

ウについては、心身への急性影響及び依存性について取り扱うこと。また、薬物は、覚せい剤や大麻等を取り扱うものとする。エについては、後天性免疫不全症候群(エイズ)及び性感染症についても取り扱うものとする。

- (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。
- ウ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があること。
- エ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

性感染症とその予防
HIVとその感染経路
(性的接触、血液感染、母子感染)

- 保健分野の授業時数は、3学年間で、48単位時間程度
- 効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当すること

高校生指導要領 保健体育 抜粋

喫煙、飲酒、薬物乱用については、疾病との関連、社会への影響などについて総合的に取り扱い、薬物については、麻薬、覚せい剤等を扱うものとする。

(1-イ) 健康の保持増進と疾病の予防

健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択が必要であること。
薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。また、医薬品は正しく使用する必要があること。
感染症の予防には、適切な対策が必要であること。

エイズの現状・流行の原因
エイズへの対策(性行為・コンドーム・HIV検査)

思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。さらに、異性を尊重する態度や性に関する情報等への対処、適切な意志決定や行動選択の必要性についても扱うよう配慮するものとする。

(2-ア) 生涯の各段階における健康

生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があること。

思春期の健康(基礎体温・無月経・無排卵)
性的欲求・性に関する情報
結婚生活と家族の健康
妊娠・出産(陣痛・産道・出産)
妊娠時の配慮・母子健康手帳
家族計画・避妊法(コンドーム・ピル)
人工妊娠中絶

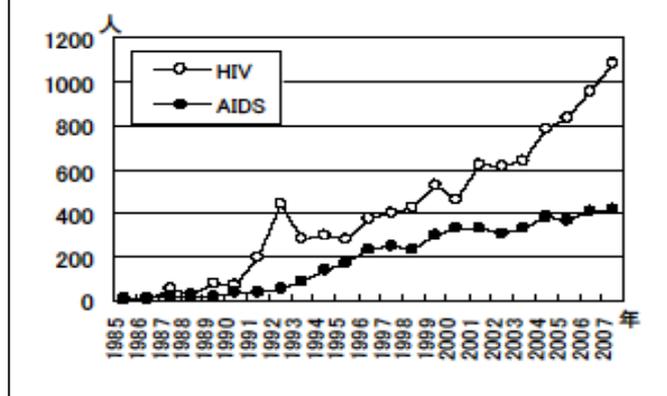
■ 入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修

Q&A

先進諸国でHIV/AIDS患者の増加に歯止めがかかっている中、日本における現状は？



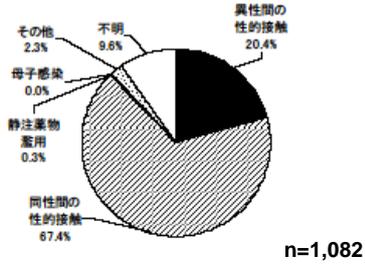
HIV感染者およびAIDS患者報告数の年次推移



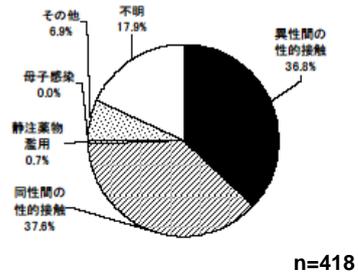
(厚労省エイズ発生動向年報より)

HIV感染者およびAIDS患者感染経路別内訳

HIV感染者 2007年度報告例



AIDS患者 2007年度報告例



2008年 新規HIV患者は1,113件

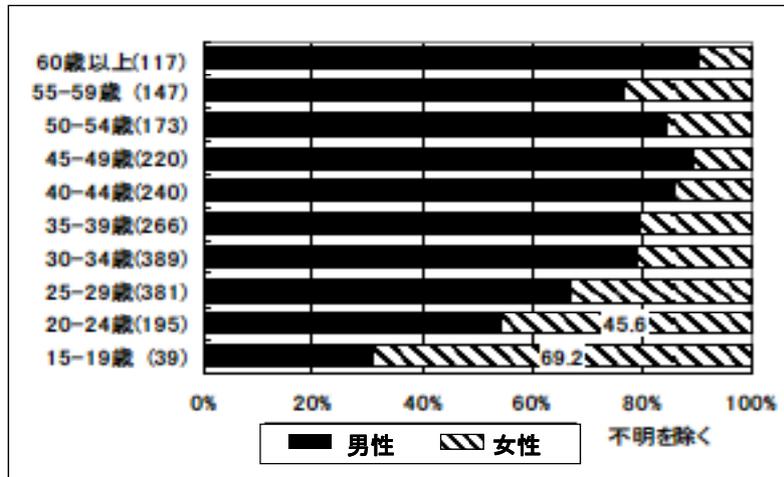
2008年 新規AIDS患者は432件

2008年3月までの累計

- HIV感染者: 9,643件 (男 7,735件、女 1,908件)
 - AIDS患者: 4,544件 (男 3,982件、女 652件) (厚労省 エイズ発生動向年報より)
- 血友病血液製剤輸血例を除く

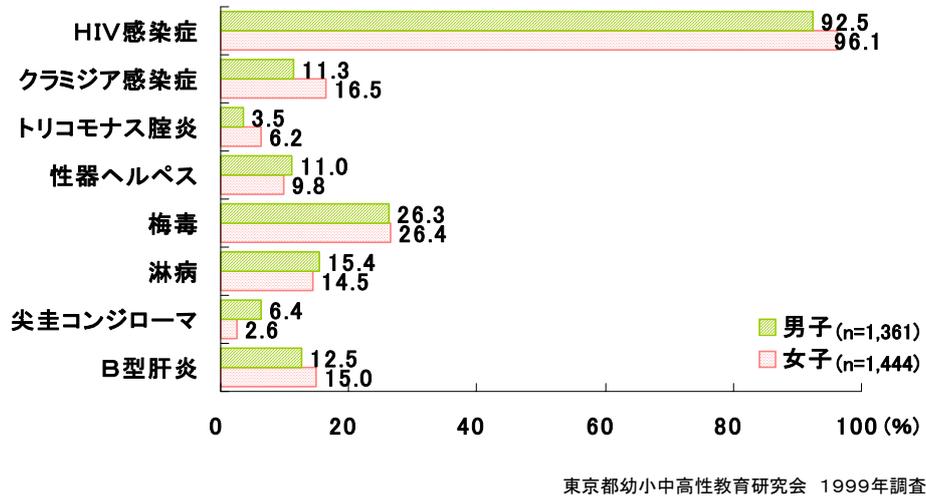
日本国籍異性間HIV感染者の年齢別・性別内訳

(2007年末までの累計 エイズ発生動向年報)



HIV感染は男性の方が多いが、異性間感染者では年齢が若いほど、女性の感染者が多い

性感染症の認識度 今までに性感染症を学んだことがある(高校生)

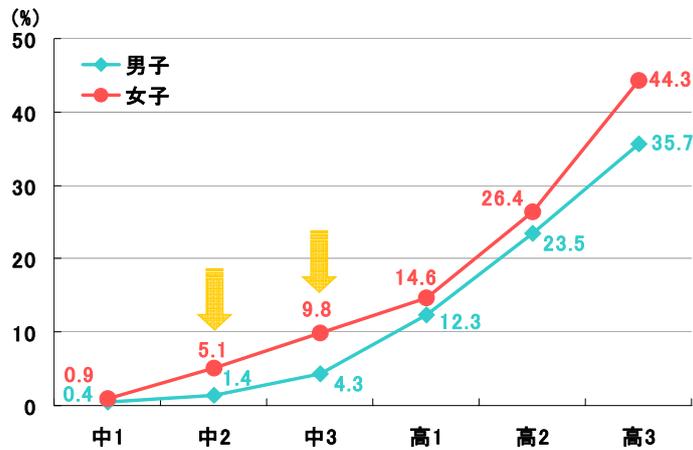


エイズの知識(中学生)



2002年調査 児童・生徒の性: 東京都幼・小・中・高心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査報告, 学校図書

中学生・高校生の性交経験率 平成17年



中学2年生の5.1%、3年生の9.8%が性交経験済み
→中学1年生のうちに、しっかりとした性教育が必要であることがわかる

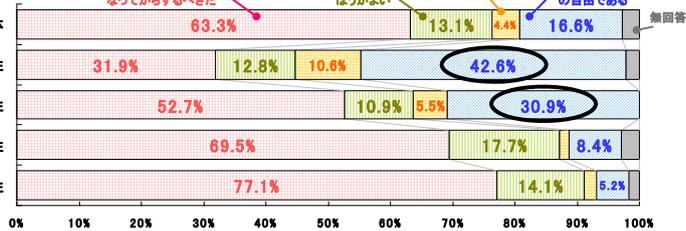
資料: 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会「東京都の児童・生徒の性意識・性行動に関する実態調査」

セックス(性交渉)に関して

中学生のセックスについて

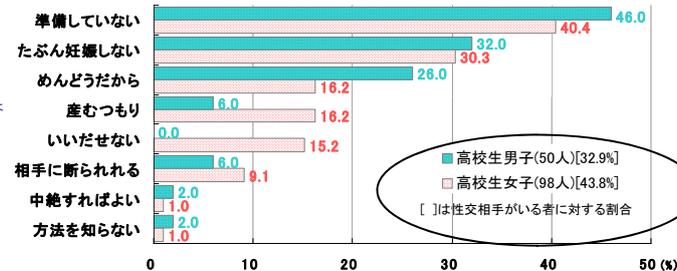
調査対象: 満16~49歳の男女3,000人
(層化二段無作為抽出法)
有効回答率52.7%

セックス(性交渉)は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからするべきだ
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい
時代の流れであるので仕方がない
セックス(性交渉)をするかしないかは、中学生であっても個人の自由である



避妊を実行しない理由

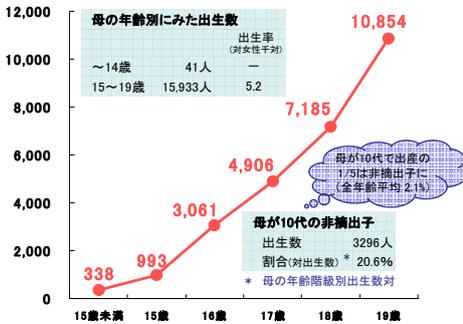
調査対象: 大都市・中都市・町村の各4地点で、高校生2,179名を含む中・高・専・大学生5,510名に対し調査がなされた。そのうち、「避妊をいつもしていない」「場合による」と答えた者、複数回答。



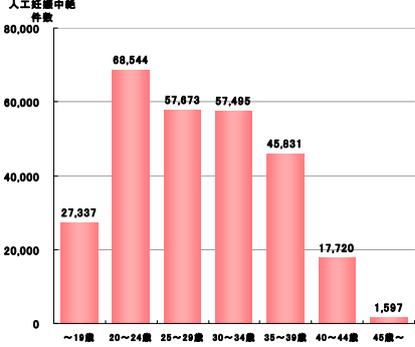
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 財団法人日本性教育協会「第6回 青少年の性行動全国調査(2005年)」 2007より改変

人工妊娠中絶の実態

10代の人工妊娠中絶の実態



全年齢層の人工妊娠中絶の実態



10代の人工妊娠中絶数ご存知ですか？

- 15歳未満 300人強、15~17歳 9,000人弱が毎年、望まない妊娠・中絶をしている
- 避妊法・妊娠・中絶について、どの時期に教育すべきでしょうか？ (中学2年生の性交経験率 5.1%)

★ 中絶に至った人は避妊をしていたのでしょうか？

- 避妊なし 52.0%
 - 体外射精 19.8%
 - コンドーム 26.2%
- 98.0%が避妊をしていないか不確実な方法

★ 中絶に至った人のうち、今回の中絶が2回目以降の割合は？

- 今回は1回目(初めて) 63.9%
- 今回は2回目以降 36.1%

出典：厚生労働科学研究費補助金「反復人工妊娠中絶の防止に関する研究」2008

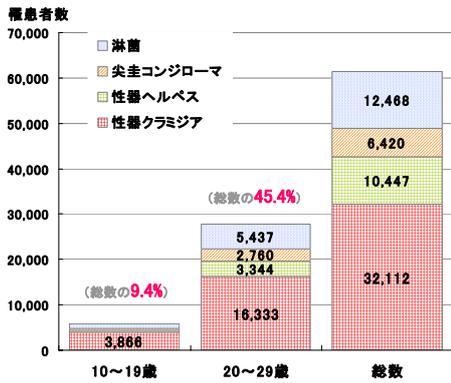
経産数、年齢、生活スタイルなどに応じて、確実な避妊法であるOC・IUDを使い分けるのが望ましい

出典：平成18年 衛生行政報告例、平成18年 人口動態統計

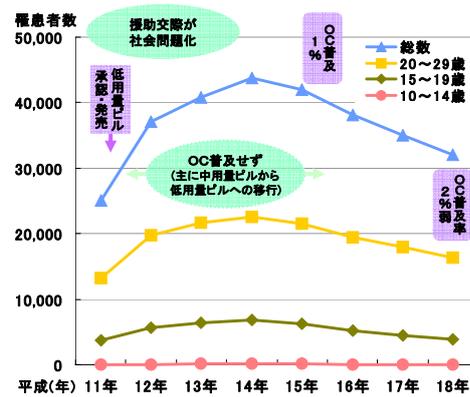
参考資料

性感染症の実態

平成18年 性感染症罹患患者数



平成11~18年 性器クラミジア罹患患者数推移



OC発売当初は、OCにより性感染症(STD)は増加すると言われていた
→ 実際は減少傾向にある

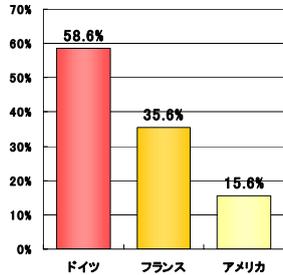
10歳代で約5,800人、20歳代で約28,000人が感染するSTDの予防のためには何が必要？

資料：厚生労働省健康局結核感染症課「性感染症報告書」より改変

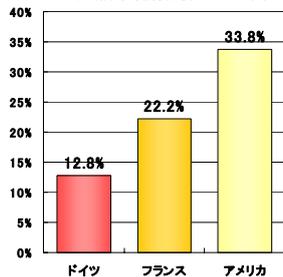
参考資料

OCの使用率と中絶割合

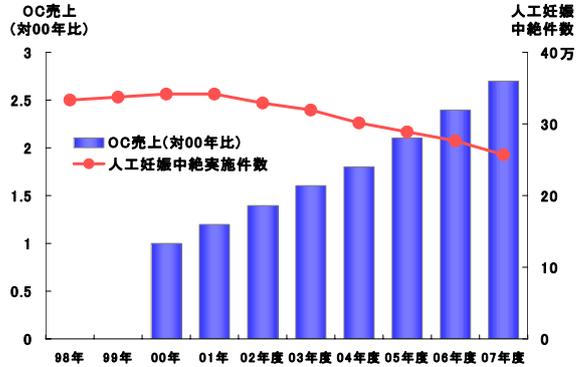
OCの使用率(%)



人工妊娠中絶数対出生比(%)



日本におけるOC売上動向と人工妊娠中絶実施件数の推移



ピルが避妊の第一選択肢となっている欧米では、OC使用率が高いほど、中絶数対出生比が低い傾向にある。(ドイツでは女性の半分がOCを服用)

日本においても中絶数は減少傾向にある。

出典: World Contraceptive Use 2005, United Nations/ UN, Demographic Yearbook. 対出生比は出生100に最新年次のもの(独1995年、仏1993年、米1991年) 厚生労働科学研究費補助金「反復人工妊娠中絶の防止に関する研究」2008

参考資料

OCの副効用・副作用

OC服用によるメリット

下記の頻度が下がります

- 月経困難症
- 子宮外妊娠
- 大腸がん
- 過多月経
- 機能性卵巣嚢胞
- 骨粗しょう症
- 子宮内膜症
- 良性卵巣腫瘍
- 尋常性ざ瘡(にきび)
- 貧血
- 子宮体がん
- 関節リウマチ
- 良性乳房疾患
- 卵巣がん

出典: 低用量経口避妊薬の使用に関するガイドライン, 日本産科婦人科学会2006

体重増加について

- 体重増加は起こりにくいと言われていますが、1kg程度の増加が0.8~2.2%の人に見られるようです(98~99%)には体重増加なし。

がんの増加について

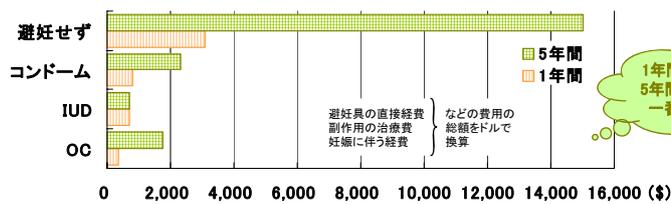
- がん全体からみるとOC非服用者に比較して、約12%減少しています。

乳がん	0.98倍
子宮体がん	0.58倍
卵巣がん	0.54倍
大腸・小腸がん	0.72倍
子宮頸がん(浸潤性)	1.33倍

OC服用中止後も予防効果が期待できます

定期的ながん検診で予防可能です

各種避妊法の経費の比較(\$)



1年間の避妊ならOCが5年間の避妊ならIUDが一番安価で確実です

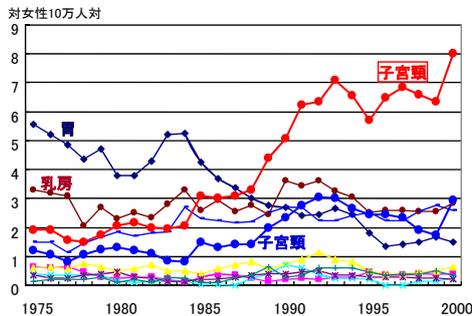
出典: 厚生労働科学研究費補助金「反復人工妊娠中絶の防止に関する研究」2008

参考資料

各種がんの発症率の推移

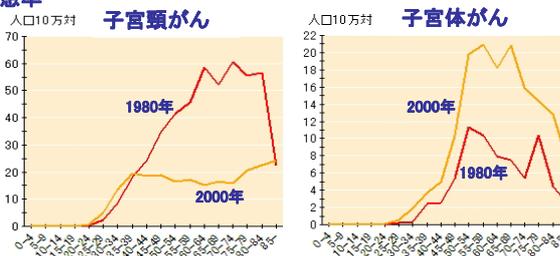
日本における20-29歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率の推移

出典: 国立がんセンターがん対策情報センター, 人口動態統計(厚労省大臣官房統計報告)



年齢階級別子宮頸がんおよび体がん罹患率 -1980年と2000年の比較-

資料: 国立がんセンター がん対策情報センター

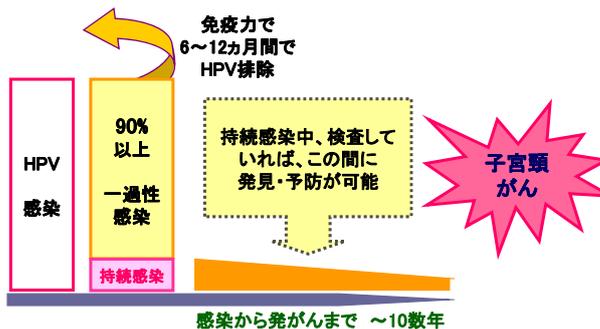


参考資料

HPV感染とHPVワクチン

HPV感染から頸がん発生までの経過

性行為の始まる10-20歳代に初感染があり、その多くが1年位の間に免疫学的に排除されていくが、よりinfectiousな環境では、加齢に伴う免疫能の低下も伴い、持続感染が起きる



HPVワクチンの国別使用状況

出典: 日経メディカル Cancer Review 2009.6

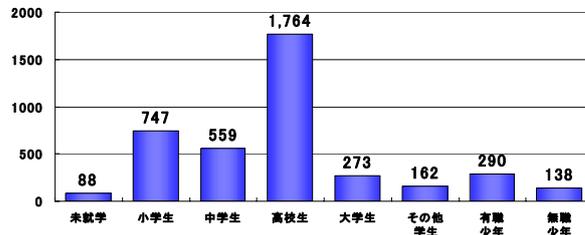
国名	対象年齢	キャッチアップ対象年齢	公費負担状況
オーストラリア	12~13歳	13~26歳	全額公費負担
アメリカ	11~12歳	13~26歳	一部公費負担
イギリス	12~13歳	18歳まで	一部公費負担
フランス	14歳	15~23歳	一部公費負担
ノルウェー	11~12歳	13~16歳	全額公費負担
ドイツ	12~17歳	なし	全額公費負担
ルクセンブルグ	12歳	13~18歳	一部公費負担

参考資料

子どもが被害者となる性犯罪の実態

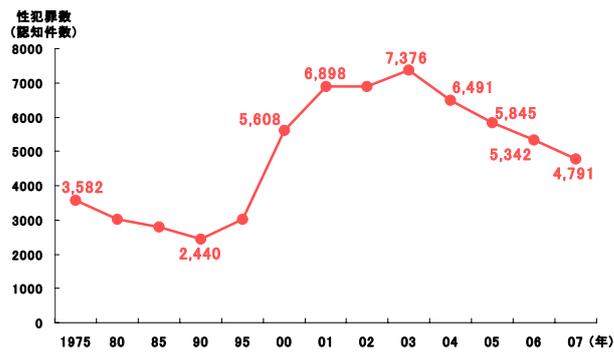
子どもが強制わいせつの被害者となる刑法犯の推移

出典：警察庁生活安全局
「少年の輔導および保護の概況」
(注)：認知件数



子どもが性犯罪被害を受けた件数の推移

出典：警察庁生活安全局
「少年の輔導および保護の概況」
性犯罪：強姦・強制わいせつ
(注)：認知件数



《参考》

- 具体的にわいせつとみなされる人体の部分
は、陰部、陰毛、肛門及び女性の乳首である。
- 被害者の男女を問わず、肛門に性器を挿入
する犯罪は、強制わいせつ罪が適用される。
- 強姦罪は男性には適用されない(男性に対す
る強姦は強姦罪の構成要件を満たさず、強
制わいせつ罪を成立させることとなる)。

性教育に対する高校生の知識

項目	正解	男子	女子	不正解	男子	女子
体外射精は確実な避妊の方法である	いいえ	69.8%	76.3%	はい	30.2%	23.7%
排卵はいつも月経中におこる	いいえ	15.8%	45.0%	はい	84.2%	55.0%
精液がたまりすぎると身体に悪い影響がある	いいえ	45.0%	13.2%	はい	55.0%	86.8%
性感染症を治療しないと不妊症になることがある	はい	49.0%	58.6%	いいえ	51.0%	41.4%
口を使ったセックスでは性感染症はうつらない	いいえ	48.4%	50.4%	はい	51.6%	49.6%
性感染症にかかると必ず自覚症状が出る	いいえ	48.3%	54.2%	はい	51.7%	45.8%



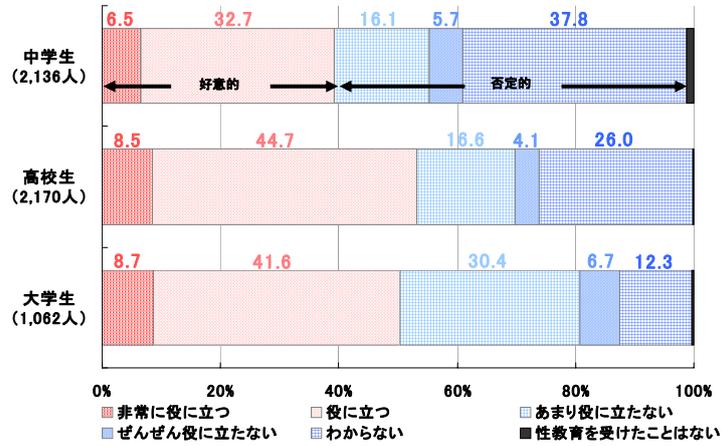
もしもの時、確実な避妊と性感染症(STD)予防ができるでしょうか？

調査対象：大都市・中都市・町村の各4地点で、中学生2,187、高校生2,178名、専門学校生66名、大学生1,078名の計5,510名に対し調査がなされた。
そのうち、無回答は除く。

出典：財団法人日本性教育協会「第8回 青少年の性行動全国調査(2005年)」2007より改変

参考資料

性教育に対する評価

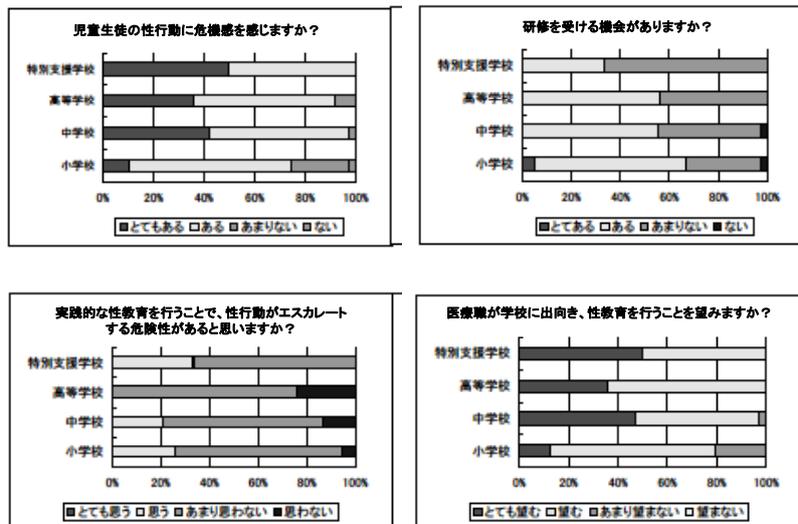


調査対象: 大都市・中都市・町村の各4地点で、中学生2,187、高校生2,179名、専門学校生66名、大学生1,078名の計5,510名に対し調査がなされた。そのうち、無回答は除く。
 出典: 財団法人日本性教育協会「第9回 青少年の性行動全国調査(2006年)」2007 より改変

養護教諭に対する性教育アンケート 平成21年3月実施

第32回性教育指導セミナー(岡山市)抄録より

対象 小学校 39名、中学校 38名、高等学校 25名、特別支援学校 6名、計108名

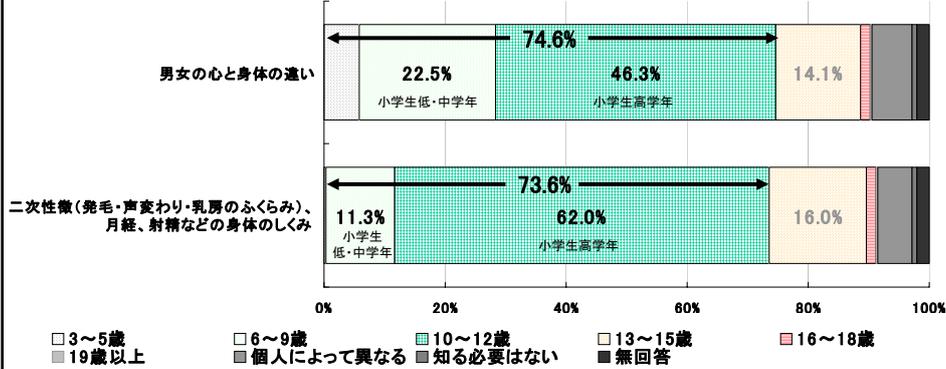


参考資料

男女の心と身体の違い、二次性徴、月経・射精

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16～49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



「男女の心と身体の違い」「二次成長、月経・射精」について、7割以上が、小学生までに知るべきと回答

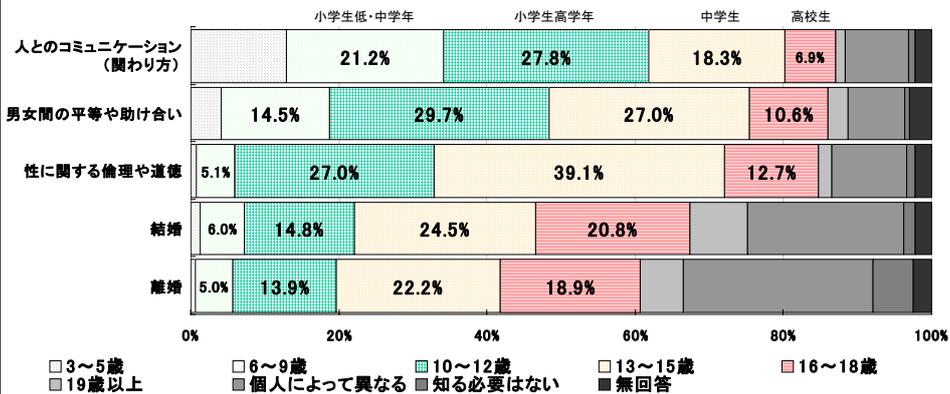
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

参考資料

性に関する倫理・道徳、結婚、離婚、など

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16～49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



小学生までに知るべきと考える頻度は、人とかかわり 60%強、男女平等や性に関する倫理・道徳については 50%未満である。

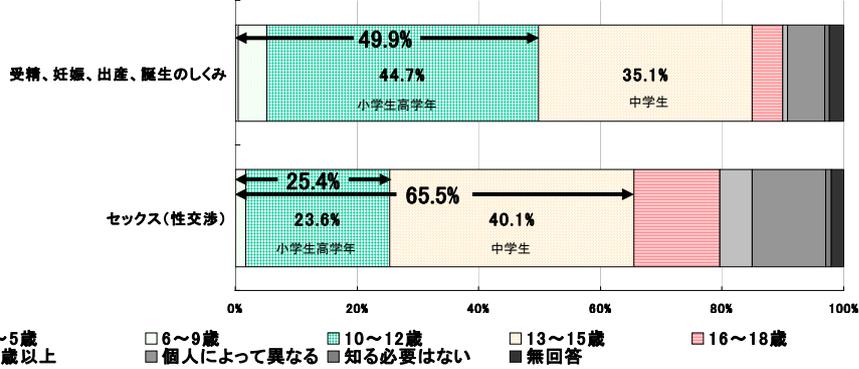
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

参考資料

受精・妊娠・出産・誕生のしくみ、セックス(性交渉)

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16～49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



「受精・妊娠・出産・誕生のしくみ」は約50%が小学生の内に、「セックス(性交渉)」は約25%が小学生の内に、65.5%が中学生までの間に知るべきと回答

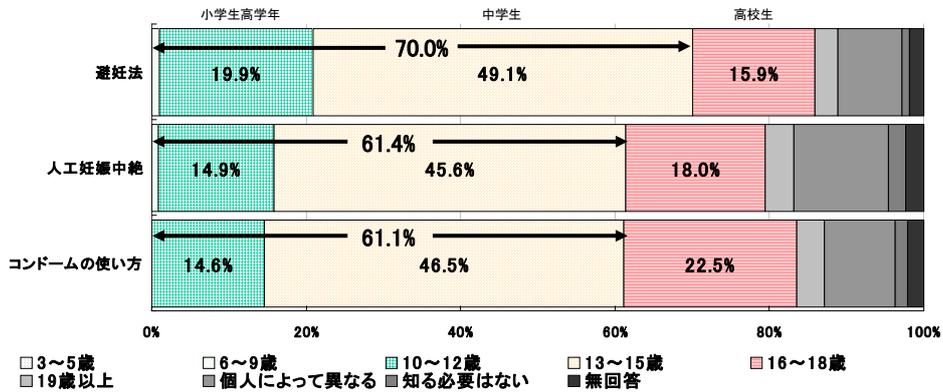
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

参考資料

避妊法、人工妊娠中絶、コンドームの使い方

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16～49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



小学生の間に知るべきは15-20%、中学生の間までには知るべきは、60-70%.

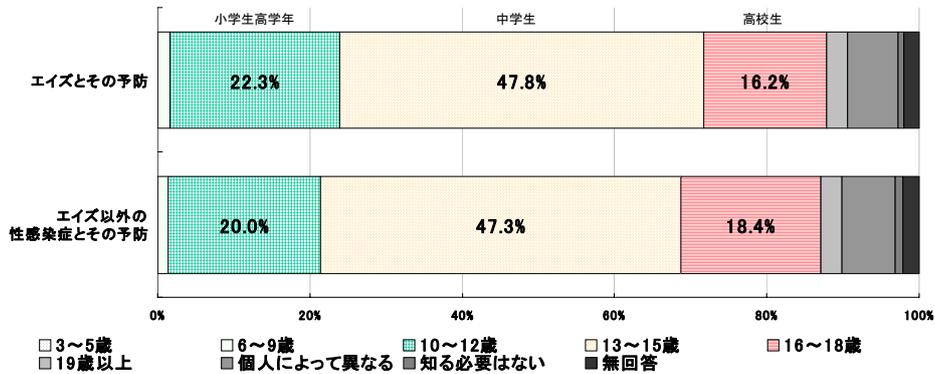
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

参考資料

エイズ・その他の性感染症(STD)とその予防

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16~49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



エイズ・性感染症とその予防を中学生までの間に知るべきと、60~70%が考えている。
高校生でよいと考えているのは、16~18%と少数である。

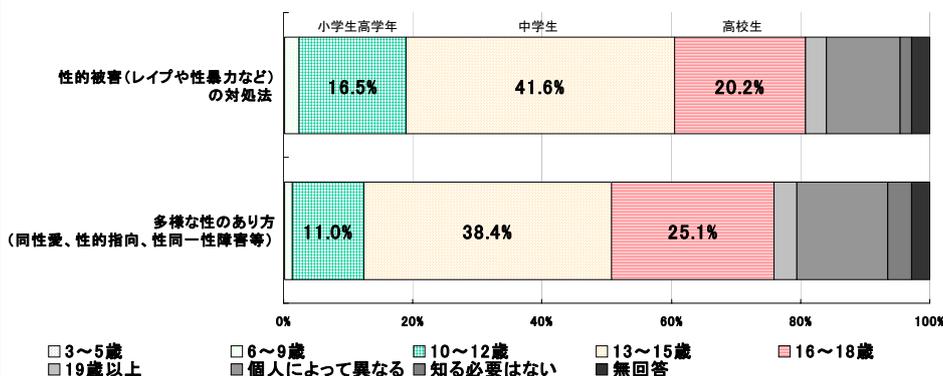
出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

参考資料

多様な性(同性愛など)、性的被害(レイプ、性暴力など)の対処法

—性に関する事柄を知るべき時期—

調査対象: 満16~49歳の男女3,000人(層化二段無作為抽出法), 有効回答率52.7%



性的被害の対処法は約60%は中学生までに、多様な性のあり方についての知識は約50%が中学生までに知っておくべきと回答

出典: 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金研究 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(日本家族計画協会) 改変

性教育のテーマ

具体的な指導

命の誕生	性器の名称、性交について
第二性徴 月経、精通、射精など	月経痛などへの対応
マスターベーションなど	思春期の悩みへの対処
健康・病原菌 性感染症 HIV/エイズ	感染経路・予防・感染後の対応
望まない妊娠/中絶	妊娠の仕組み、対応、中絶とは
避妊	コンドーム、ピルなど
性被害、性犯罪	性犯罪に会ったときの対応
デートDV	デートDVへの対応
その他	
不妊	高齢妊娠、性感染症のリスク
リプロダクティブヘルス	母子の健康、次世代の健康
子宮頸がん検診、ワクチンなど	ヒトパピローマウイルスとの関連
性同一性障害、同性愛など	その他 性に関する情報



産婦人科医の活用

文科省「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」

(平成20年より開始)

この事業を推進し、産婦人科医が学校の現場や地域で、教職員、学校医および父母などと連携しながら、性の健康教育を行っていただけるように、支援をお願いします。

産婦人科医の参画は極めて少ないのが現状です。

文科省「学校・地域保健連携推進事業」(平成16-18年, 19年延長)

平成16年度(2億1,136.1万円)、17年度(1億6,868.3万円)、18年度(1億5,178.8万円)の予算の下、各都道府県教育委員会から文部科学省への手上げ方式で申請する形で、都道府県医師会を通じ、学校へ専門医(診療科として、精神科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科)を学校協力医として派遣し、児童生徒の様々な健康問題に対応できるようにするモデル事業であった。

このモデル事業を発展させた事業が、上記の子供の健康を守る地域専門家総合連携事業である。